

F/T13
FESTIVAL/TOKYO

ARTS
COUNCIL
TOKYO



東京文化発信
プロジェクト



TOKYO ● 2020

The Coming Storm—嵐が来た / フォースド・エンタテインメント

演出：ティム・エッチェルス

The Coming Storm / Forced Entertainment

Direction: Tim Etchells

11.29 (Fri) - 12.1 (Sun)

にしすがも創造舎

Nishi-Sugamo Arts Factory



演出ノート

ティム・エッチェルス

世の中にある一つひとつの物語に魅了されながら、私たちはいつも、その単調さにかなり欲求不満を感じている。たとえば、「AによってBとなり、そしてCとなる」といった古い物語を楽しみながら、私たちはつねに、抗いがたく斬新な、アルファベットの順列を乱すような新しい物語を探している。

『The Coming Storm』をつくるとき、私たちはいつものように、一つの物語をつくろうと心に決めていた。にもかかわらず、リハーサルでは、物語はただただ断片的な方向に進んでいった。完成されない物語、場面やイメージは、俳優が語ることで、互いに関連し合い、そして矛盾していく。

即興、ビデオ鑑賞、スラング、ひらめき、そして議論といった創造プロセスは、スタジオでの稽古を通し、テキスト、音楽、アクションなど舞台の要素として、出演者たちの対話と相互関係、作中の異なるレイヤーへと落とし込まれていく。

作品が本当の意味で“起こる”のは、そうした異なる場面の切り返しにおいてである。主に即興を通じてつくられたテキストは、ゆるく、簡単な言葉で、スタジオで話された時のままだ。要素として作られた物語は、多様である。それらの多くは未完成で、ほんの一部には信憑性もあり、いくつかは個人的な物語として語られるが、そのあいだにもほかの人たちは、とんでもなく不可能で複雑な映画のプロットのような話をしている。

もしも、この日常と同じように繰り返される、即自的で、自伝的で、不条理な体験が同時多発する奇妙な空間を、舞台にマッピングするとしたら、それは、ただやってみるしかないのである。

この作品において、私たちがもっとも関心を寄

せているのは、未完成な物語は常に観客によって完成されるということ、もしくは想像的に補完されるということである。『The Coming Storm』では、たくさんの物語が紡がれ、形づくられていく中（あるいは外で）、状況がつくり上げられていく。それはいくつかの点で、長年私たちがつくってきたもののなかでもっともわかりにくい作品かもしれない。実際、物語は断片的で、その物語のトーン、イメージや雰囲気は宙吊りにされたまま移り変わり、繋がり合うように見えて、バラバラに崩壊していく。一風変わった方法で私たちがつくり上げたこの作品は、物語というよりもミュージカルに近いのかもしれない。その原理は、連想的で、詩的で、エネルギーで、矛盾を抱きながらもパターンを持ち、かつ繋がりをもって演じられることにある。私たちはいきいきとした何かをもつ作品——リスクを感じながら、いつも新鮮で、最先端の何かを感じる作品を望んでいるのだ。

(翻訳：楢山由香)

ティム・エッチェルス

1962年生まれ。84年にフォースド・エンタテインメントの設立に参加、演出を務める。パフォーマンス、ビジュアルアートと物語を横断しながら、上演のライブ性や、時間や場にとらわれないイベント性に着目した活動を続けている。2009年には、物語（ナラティブ）

をテーマに、自作の小説を原案とした「中身の無い物語」を発表。本作『The Coming Storm—嵐が来た』では、そのテーマをさらに拡大し、特有のブラックユーモア、印象的なイメージのコラージュ、アナキーなパフォーマンスを展開させる。また、個人としても、他のアーティストとのコラボレーションを積極的に行っている。ランカスター大学パフォーマンス学教授。



© Hugo Glendinning

メンバーが語る『The Coming Storm—嵐が来た』

フォースド・エンタテインメントは28年間共に活動してきた。私たちの特長は、“遊び”と、“発明”を信じる点にある。「映画や本や歌ではなくて、どうして演劇なんだろう？」私たちはいつもそんな問いを投げかけ、そして自ら答えを探している。私たちは、パフォーマンスの生の存在感にとっても興味を持っている。

これが私たちの本当にやりたいことなのだろうか？それは効果があるのか？ 充分うまくいっている？それとも失敗？

28年間お互いに近づいたり離れたり、私たちはまるで一つの家族みたいに活動を続けてきた。歴史や言葉を共に積み上げてきたけれど、時には互いにぶつかりあうこともある。

即興の時間、即興の日々……

『The Coming Storm』の制作にとりかかった時、私たちが挑戦したかったことは、やはり「物語」を用いた何かだった。

それからもう一つ私たちがやりたかったのは音楽。生の音楽をステージで使うことだった。一時的にリハーサルで使用していた部屋に、古いアップライトピアノがあった—そこから何かが起こった。

この作品は“良い物語”に必要なものは何かという基本的な問いから始まる。最高の物語—あるときは野放図な言葉のように空想的で、それ自体がエネルギーのようにめぐりめぐる何か。最高の物語は祝賀的な何か、ポジティブで、強さを与えてくれる源として使いたくなる何か。最高の物語は怯えさせる何か、世界の恐ろしさを私たちに伝える何か。

© Hugo Glendinning



それは、人生の中で最高に凶々しい要求かもしれない。それは、ステージの上で口にするには最も不適切なことかもしれない。

たくさんの遊びと競争心が出演者の間に生まれる。彼らは異なるやり方で、互いを邪魔し、互いの物語や物の間で質問したり、疑いをかける。

私たちは極端なものに興味を抱いている。馬鹿らしい衣裳に身を包んで、気のふれたようにステージを駆け回ったり……でもそこには本物の闇があったりする。

馬鹿らしく無秩序で愉快的瞬間が、次第に胸を刺すような切ない瞬間へと変わっていく。

それはあなたを驚かせ、楽しませ、そしてちょっぴり困惑させるかもしれない。

私たちにとって観客は常にアクティブである。あなたはそこに座っているだけかもしれない。けれど、常に忙しいのだ、絵を完成させたり、私たちがしたことと点を繋いだり……。

(“A taster of our Introductory DVD about The Coming Storm” より再構成)

フォースド・エンタテインメント 演劇、物語、人生に対する愛憎と懐疑 エグリントンみか(神戸市外国語大学英米学科准教授)

フォースド・エンタテインメントは、イングランド南西部にあるエクセター大学演劇学科の卒業生によって1984年に結成された、来年には活動30周年記念を迎える息の長いアーティスト集団である。結成後に間もなく北イングランドにある工業都市シェフィールドに拠点を移して以来、劇場以外の場所での演劇公演はもちろん、映画、デジタルメディア、インスタレーションなどを駆使した、既成の枠に留まらない活動を展開。「パフォーマンス」の概念を独特のやり方で破壊しつつ拡張しながら、変化し続ける現代を映し込む50以上もの実験的な作品を生み出してきた。国内外で精力的にツアーやワークショップを行い、90年代中頃からは英国を代表するアヴァンギャルド・パフォーマンス集団として目されるようになった。

芸術監督ティム・エッチェルスを中心に、ロビン・アーサー、リチャード・ロウドン、クレア・マーシャル、キャシー・ネイデン、テリー・オコナーからなる6人のコアメンバーに揺らぎがない点も、この集団の特質のひとつである。学生演劇を出自とするアーティスト集団は、ある程度の成功を収めても、しばらくすると解散なり再編成してしまうケースが多い。フォースド・エンタテインメントのように、各々独自の活動を続けながら、四半世紀を超える共有体験を基盤に、即興と討論を通して作品を共同制作していく集団は、英国のみならず世界においてもあまり例を見ない。

さらに特筆すべきは、人生の折り返し地点を通

り越し、パフォーマーとしての名声を確立したアラフィフの大人たちが、保守化や権威化へ迷走する事も、マンネリに陥る事もなく、劇場／遊戯場、あるいは戦場を、時に子供のように、時に兵士のように走り回り、倒れ、転がり続けている事実だ。「無理強いされた遊戯/娯楽/冒険」と訳す事ができる、英国流の皮肉と諧謔が入り混じる名を持つ集団が、保守的な権威に抗いつつ戯れる前衛であり続けられるのは、彼/彼女らが、劇場という戦場において、文字通り最前線で演劇なるものと戦っているからである。

活動25周年記念を迎えた2009年、演劇評論家リン・ガードナーとのインタビューにおいて、エッチェルスは次のように答えている。

演劇を嫌っている訳ではない。……演劇に、演劇がライブ生であることに、取り憑かれている。演劇の伝統的な形式や手法を愛している一方で、欲求不満になって戦争をしかけてしまうんだ。……演劇を破壊する度に、それをもう一度組み立てて、飛ばそうとする術も見つけ出そうとしている。

(The Guardian, 23 February 2009)

演劇に固執しながらも闘争をしかけ、破壊と再建を繰り返すフォースド・エンタテインメントの作品には、常に演劇への愛憎と懐疑が潜んでいる。例えば、2010年のポストメインストリーム・パフォーマンス・アーツ・フェスティバルに登場した2000項

目に及ぶQ&Aセッション『Quizoola!』(1996)、着ぐるみで踊ったり、外国語レッスンをしたりしながら役者達が必死で即興を続ける24時間耐久ライブ『誰か歌を歌って、私をなだめて』(Who Can Sing a Song to Unfrighten Me? 1999)、「あなたは腎臓癌で死ぬ/あなたは交通事故で」と、観客に向かって死を予告し、その安全地帯を無化する不穏なボードビル『初日』(First Night, 2001)、1億年に渉る人類の歴史を2時間程の舞台で駆け抜ける壮大にして無謀な叙事詩演劇『世界図録』(The World in Pictures, 2006)といった90年代後半以降の代表作では、舞台上で繰り広げられる、心底バカバカしくも時として哀愁漂うエンタテイメントに、観客も役者同様に巻き込まれる羽目になる。期待と予想を裏切る遊びの虜となる観客が多々いる一方で、劇場で侮辱されたと憤って席を立ち、チケット代の払い戻しを要求する観客もさほど珍しくはない。

退屈な舞台、失敗した舞台をメタシアトリカルに演劇化し、伝統的な演劇形態や演劇という現象そのものに対する懐疑を舞台に乗せようとするフォースド・エンタテインメントが、国際的アヴァンギャルド集団としての地位を確立して久しい。にもかかわらず、ロイヤル・ナショナル・シアターを頂点とする英国演劇界の主流に飲み込まれることなく、独自の潮流を生み出してきたこの集団が、ウエストエンドからいまだどこか懐疑的な眼で見られている事も確かだ。地方都市シェフィールドに拠点

を置くこの異能集団が、演劇都市ロンドンの脅威となるほどに、予測不可能で体制転覆的である証でもあるのだが。

フォースド・エンタテインメントの既存の演劇に対する愛憎と懐疑は、整合性ある物語やありきたりの人生に対する愛憎と懐疑にも繋がっており、彼/彼女らの実験精神と遊び心と表裏関係にある。『The Coming Storm一嵐が来た』は、6人の役者が裸舞台上に立ち尽くす中、「よい物語は、明快な出だしから始まる。激しく、ダイナミックな」とテリーがおもむろに語り出す事によって始まる。6人はマイクを奪い合い、互いの話を褒めたり貶したり遮ったりしながら、各々にとっての「よい物語」を語り出す。珍妙なコスプレ、奇天烈なダンス、素人臭い楽器演奏が同時進行する中、西アフリカで遭難した友人、魔法の力を持った祖父、13歳の時にバスで出会った女の子、携帯電話から響くオバマの笑い声など、時に曖昧で時に鮮烈なイメージを持った物語が立ち現れ、別の物語にすり替えられ、消えていく。ロブの「ちょっとセンチメンタルで、哀愁に満ちた楽観主義」で幕となるこの舞台には、明快な出だしも劇的な最後も欠けている。だが、ふと観客の心に響く、性愛や生死に関する哲学的な思想や、詩的な言葉を含む複数の未完の物語群は、不条理と非喜劇が入り交じる、ユニークな人生の瞬間を断片的に映し出す鏡となっている。

フォースド・エンタテインメントのつづる「物語」

『And on the Thousandth Night...』(2000)

観客が自由に入退場を許された、6時間継続するパフォーマンスは、物語とその聞き手、物語とその語り手の間にそれぞれ起こる生き生きとした関係性を探求している。安っぽい赤いマントとダンボールの王冠をかぶり、王様と女王様に扮した8人のパフォーマーによって物語は語られる。物語は彼ら自身の記憶に牽引され、つくり上げられていく。しかし、そこではどんな物語も終わることを許されない。どの物語も、語り終わられることなく、ほかのパフォーマーの“stop”の一言で遮られてしまう。そして彼らは次々とふたたび自身の物語を語りだすのだ。



『Bloody Mess』(2004)

地面に向けられたストロボライトが明滅する。化粧の崩れかけたピエロが2人、舞台を乗っ取らんとする勢いで醜い喧嘩を始める。1人の女がまるで歌劇のように悲哀に嘆き、泣き止んだかと思うと、衣裳を着替えてまた嘆き始める。1人の男がビッグ・バン以降の世界の歴史を語り始めるが、それもすぐに遮られる。2人の男が手作りの星型アルミホイルだけを身にまとい、ダンスを披露する。美しい静寂が舞台を包みこむ。フォースド・エンタテインメントの『Bloody Mess』は説明や類別を無視する。切り離された人物や物語、演技がぶつかり合うこの壮大な作品は、フォースド・エンタテインメントの20年間にわたる演劇活動の真骨頂である。



『Void Story』(2009)

『Void Story』は、フォースド・エンタテインメントが贈る暗くコミカルな現代の寓話である。まるでラジオドラマの収録のようにテーブルに座り、台本をめくりながら、必要に応じて声帯模写を行い、銃声や雨音、繋がりの悪い電話の音などの効果音を加える。同時に、ティム・エッチェルスのユニークなまとまりのないテキストの、実現不可能な映像版の絵コンテが投影される。その一連のイメージが、空っぽの舞台を埋め尽くす。生の会話と録音された音響効果、そしてコラージュされたイメージの狭間で物語 (narrative) の視覚化は進められ、それらの中からまさに『Void Story (中身のない物語)』が生まれるのである。



Photo © Hugo Glendinning

構成・作：フォースド・エンタテインメント

出演：ロビン・アーサー、フィル・ヘイズ、リチャード・ロウドン、クレール・マーシャル、キャシー・ナデン、テリー・オコネル

演出：ティム・エッチェルス

デザイン：リチャード・ロウドン

照明デザイン：ニガール・エドワード

音響：フィル・ヘイズ、フォースド・エンタテインメント

音響コンサルタント：ジョン・アバリー

演出助手：ヘスター・チリングワース

制作：ライ・レニー、ジム・ハリスン

共同製作：バクト・ツォルフェライン（エッセン）、アヴィニオン演劇祭、ゲスナーアレー劇場（チューリッヒ）、タンツクォーター劇場（ウィーン）、レスベクタクル・ピボン（パリ）、ボンビドゥーセンター）、フェスティバル・ドートンヌ（パリ）、LIFT（ロンドン）、パタシー・アート・センター（ロンドン）、シェフィールド・シティ・カウンシル

フォースド・エンタテインメントはアーツカウンシル・イングランドより助成を受けています。

東京公演スタッフ

技術監督：廣川英司+鴉屋

技術監督アシスタント：加藤由起子

舞台監督：河野千鶴

演出部：松本ゆい

美術コーディネーター：大津英輔

小道具コーディネーター：長谷川ちえ

照明コーディネーター：佐々木真喜子（株式会社ファクター）

音響コーディネーター：相川 晶（有限会社サウンドウイーズ）

衣装管理：安達七佳

字幕アドバイザー：幕内 寛（舞台字幕・映像 まくうち）

字幕・翻訳：新井知行

通訳：石井園子、エグリントンみか

記録写真：石川 純

記録映像：株式会社彩高堂「西池袋映像」

F/Tスタッフ

制作統括：武田知也

制作：橋山由香

制作アシスタント：目澤美裕子

フロント運営：西村和晃

プログラム・ディレクター：相馬千秋

ユース・アート・マネジメント・プログラム（YAMP）：

伊藤羊子、今井美希、作田飛鳥、守山真利恵

特別協力：ブリティッシュ・カウンシル

助成：グレートブリテン・ササカワ財団

主催：フェスティバルトーキョー

Conceived and Devised by the company

Performers: Robin Arthur, Phil Hayes, Richard Lowdon, Claire Marshall, Cathy Naden, Terry O'Connor

Direction: Tim Etchells

Design: Richard Lowdon

Lighting Design: Nigel Edwards

Music: Phil Hayes, Forced Entertainment

Music Consultant: John Avery

Assistant Director: Hester Chillingworth

Production: Ray Rennie, Jim Harrison

Co-produced by PACT Zollverein, Essen;

Festival Avignon; Theaterhaus Gessneralle, Zurich;

Tanzquartier, Vienna;

Les Spectacles Vivants - Centre Pompidou, Paris;

Festival d'Automne à Paris;

LIFT, London; Battersea Arts Centre, London; Sheffield City Council

Forced Entertainment is regularly funded by Arts Council England.

Tokyo Performance Staff

Technical Manager: Eiji Torakawa + Karasuya

Assistant Technical Manager: Yukiko Kato

Stage Manager: Chizuru Kouno

Stage Assistant: Yui Matsumoto

Stage Design Co-ordination: Eisuke Otsu

Prop Co-ordination: Chie Hasegawa

Lighting Co-ordination: Makiko Sasaki (Factor Co., Ltd.)

Sound Co-ordination: Akira Aikawa (Sound Weeds Inc.)

Dress: Nanaka Adachi

Surtitles Advisor: Satoru Makuuchi

Translation, Surtitles: Tomoyuki Arai

Interpretation: Sonoko Ishii, Mika Eglinton

Photographer: Jun Ishikawa

Video Documentation: Saikoudo Co., Ltd.

F/T Staff

Production Manager: Tomoya Takeda

Production Co-ordinator: Yuka Sugiyama

Production Assistant: Fuyuko Mezawa

Front of House: Kazuaki Nishimura

Program Director: Chiaki Soma

Youth Art Management Program (YAMP):

Yoko Ito, Miki Imai, Asuka Sakuta, Marie Moriyama

Special co-operation from British Council

Supported by Great Britain Sasakawa Foundation

Presented by Festival/Tokyo



Supported using public funding by
**ARTS COUNCIL
ENGLAND**



フェスティバル/トーキョー組織委員

天児牛大	振付家、演出家
萩田伍	アサヒグループホールディングス株式会社 代表取締役会長 兼 CEO
扇田昭彦	演劇評論家
永井多恵子	公益社団法人国際演劇協会 (ITI/UNESCO) 日本センター会長
樋川幸雄	演出家
野田秀樹	演出家
野村萬	狂言師
福原義春	株式会社資生堂 名誉会長 (50音順)

フェスティバル/トーキョー実行委員会

名誉実行委員長	高野之夫	豊島区長
実行委員長	市村作知雄	NPO法人アートネットワーク・ジャパン 会長
副委員長	吉末弘昌	豊島区文化工部局長
委員	八巻規子	豊島区文化工部局文化デザイン課長
	大沼映雄	公益財団法人としま未来文化財団 常務理事 / 事務局長
	岸正人	公益財団法人としま未来文化財団 部長
	蓮池奈緒子	NPO法人アートネットワーク・ジャパン 理事長
	相馬千秋	NPO法人アートネットワーク・ジャパン プログラム・ディレクター
監事	天貝勝己	豊島区総務部総務課長
法務アドバイザー	福井和幸	北澤尚登 (骨董通り法律事務所)

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

プログラム・ディレクター	相馬千秋
事務局長	蓮池奈緒子
事務局次長	小島寛大
制作統括	武田知也
制作	河合千佳、喜友名織江、小森あや、 桐山由香、高橋マミ、戸田史子

公募プログラムコーディネート

メディア戦略・広報	小山ひとみ
メディア戦略・広報アシスタント	松本花音
オープン・プログラム	北沢聡子、田村かのこ
オープン・プログラムアシスタント	藤井さゆり
票券	田野入涼子、後藤天
票券アシスタント	長原理江
チケットセンター	常澤淳、伊指敏
総務	佐々木由美子、佐藤久美子
経理	葦原円花、一色壽好
	堤久美子、青木亮子

技術監督

技術監督アシスタント	寅川英司
照明コーディネーター	河野千鶴
音響コーディネーター	佐々木真真子 (株式会社ファクター) 相川晶 (有限会社サウンドーズ)

アートディレクション+デザイン

ウェブサイト	アジール (佐藤直樹+中澤耕平+菊地昌隆)
パブリシティ	濱田真一+北島謙子+重松佑介 (株式会社フロフトワーク)
海外広報・翻訳	平昌子、望月章宏
物販	アンドリュース・ウィリアム
編集・執筆	渡辺淳 鈴木理映子

主催：フェスティバル/トーキョー実行委員会

東京都・豊島区・アーツカウンシル東京・東京文化発信プロジェクト室・東京芸術劇場 (公益財団法人東京歴史文化財団)・公益財団法人としま未来文化財団・NPO法人アートネットワーク・ジャパン
共催：公益社団法人国際演劇協会 (ITI/UNESCO) 日本センター
協賛：アサヒビール株式会社、株式会社資生堂、ブルームバーグ エル・ピー
助成：公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団

後援：外務省、公益社団法人日本芸術家連盟団体協議会
特別協力：西武池袋本店、東武百貨店池袋店、東京鉄道株式会社、株式会社サンシャインシティ、
チャオト株式会社
協力：東京商工会議所豊島支店、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、一般社団法人豊島区観光協会、一般社団法人豊島産業協会、公益社団法人豊島法人会、池袋イベント推進協力会、池袋ホテル会
メディアパートナー：ART IT、J-WAVE 81.3 FM、新潟、CINRA.NET、美術手帖
ホテルパートナー：サンシャインシティプリンスホテル、ホテルメトロポリタン、ホテル グランドシティ、
クラブホテル池袋
地域パートナー：池袋西口商店街連合会、特定非営利活動法人セファール池袋まちづくり
宣伝協力：株式会社ホステス・ハウス・カンパニー、有限会社ネビュラエクストラサポート (公募プログラム)
会場協力：アサヒ・アートスクエア (公募プログラム)
認定：公益社団法人企業メセナ協議会

平成25年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ

【会期】平成25年11月9日(土)～12月8日(日)

ユース・アート・マネジメント・プログラム (YAMP)：石井菜保子、伊集院萌、伊藤安那、伊藤羊子、稲垣美実、乾壺沙美、今井美希、榎村真、大田 久、緒方真由、紙 弘香、川又美樹、栗田知宏、奥水すみれ、
崔 瀧、作原飛鳥、佐藤成行、澤田 隆、清水裕花、菅井新菜、田中ゆかり、菅川仁美、塚田佳都、野口 彩、平沢花鈴、嵯 朝美、嶋久美、三浦彩歌、水野美奈、守山真利恵、山崎 倫、山本美幸、吉田恭大、吉田由貴

F/T/ML：青木まな絵、青木由香、青柳佳代子、阿原乃里子、別荘真由子、館森明香、五十嵐結子、石川世梨、石川拓夫、堀又義雄、今泉友来、岩城春樹、大原尚子、大嶋純子、大津佑子、大村真央、大和田真未、
岡本静華、小野寺あす子、小野菜津美、鐘味佳代、片桐根子、加藤真帆、加藤佑麻、金子環夫、川島幸子、桐谷佳美、工藤咲咲、桑島剛史、鷲宮衣子、小平怜奈、五藤 真、後藤真哉、小林淳平、齋藤
利央子、崎濱聖規、佐藤裕香、佐藤直子、染田 光、清水裕加里、常島真子、杉崎由佳、鈴木明子、鈴木朋子、岡島悠生、平里梨香、平 七海、平高信治、高橋 類、高松童子、窪田光子、竹之内さやか、竹之内薫子、
田中佑、手塚 哲、寺元奈津美、照沼詔尊、戸塚 碧、藤田知子、ドラックサンズ、中村直樹、中村光子、中村優子、中野野斗、西本健吾、平松里子、広田 牧、藤田 輝、藤田 暁、藤林まきら、ブリット、コナー、
古庄美和、堀越時予子、溝口 凜、村川莉子、村田陽亮、百瀬美樹、矢田沙和子、山口侑紀、山科有良、米谷今日子、四方田満子、和田幸子、渡邊早紀ほか

発行：フェスティバル/トーキョー実行委員会 〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨4-9-1 にしすがも創造舎 NPO法人アートネットワーク・ジャパン内 TEL:03-5961-5202 <http://festival-tokyo.jp/>
編集：鈴木理映子、フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局 アートディレクション+デザイン：佐藤直樹+中澤耕平 (ASYL)、小林 剛
※内容は変更になる場合がございます。ご了承ください。

Festival/Tokyo Organization Committee

Ushio Amagatsu	Choreographer, Director
Hiroshi Ogita	Chairman and Representative Director, Chief Executive Officer, Asahi Group Holdings, Ltd.
Akihiko Senda	Theatre critic
Taeko Nagai	Chairman, Japanese Centre of International Theatre Institute (ITI/UNESCO)
Yukio Ninagawa	Director
Hideki Noda	Director
Man Nomura	Kyogen actor
Yoshiharu Fukuura	Honorary Chairman, Shiseido Co., Ltd

Festival/Tokyo Executive Committee

Honorary President of the Executive Committee: Yukio Takano, Mayor of Toshima City
Chairman of the Executive Committee: Sachio Ichimaru, Arts Network Japan Director
Vice Chairman of the Executive Committee: Masahiro Yoshizue, Director of Culture, Commerce and Industry Division of Toshima City
Committee Members:
Noriko Yamaki, Culture, Commerce and Industry Division, Director of Cultural Design Section
Hideo Onuma, Director of Secretariat of Toshima Future Culture Foundation
Masako Kishi, Executive Manager of Toshima Future Culture Foundation
Naoko Hasuake, Arts Network Japan Representative
Chiaki Soma, Arts Network Japan Program Director
Supervisor: Katsumi Amagi, General Affairs Division, Director of General Affairs Section of Toshima City
Legal Advisors: Kensaku Fukui, Hisato Kitazawa (Kotto Dori Law Office)

Executive Committee Office

Program Director: Chiaki Soma
Administrative Director: Naoko Hasuake
Vice Administrative Director: Hirotomo Kojima
Production Manager: Tomoya Takeda
Production Co-ordinators:
Chika Kawai, Oriie Kyuna, Aya Komori, Yuka Sugiyama, Mami Takahashi, Fumiko Toda
Emerging Artists Program Co-ordination: Hitomi Oyama
Media Strategy: Kanon Matsumoto
Media Strategy Assistants: Satoko Kitazawa, Kanako Tamura
Open Program: Sayuri Fujii
Open Program Assistants: Suzuki Tanooni, Takashi Ogo
Ticket Administration: Rie Nagahara
Ticket Administration Assistants: Nagisa Sugahara, Jyomyong Yoon
Ticket Center: Yukiko Sasaki, Kumiko Sato
Administrators: Madoka Ashihara, Hisayoshi Ishishi
Accounting: Kumiko Tsutsumi, Ryoko Aoki

Technical Director: Eiji Torakawa
Assistant Technical Director: Chizuru Kuno
Lighting Co-ordination: Makiko Sasaki (Factor Co., Ltd.)
Sound Co-ordination: Akira Aikawa (Sound Weeds Inc.)

Art Direction + Design: Asy! (Naoki Sato + Kohel Nakazawa + Masataka Kikuchi)

Website: Shinichi Hamada + Satoko Kitajima + Yu Shigematsu (ofwork Inc.)
Public Relations: Masako Arita, Akihiro Mochizuki
Overseas Public Relations, Translation: William Andrews
Merchandise: Jun Watanabe
Editor/Writer: Rieko Suzuki

Organized by Festival/Tokyo Executive Committee

Tokyo Metropolitan Government, Toshima City, Arts Council Tokyo & Tokyo Culture Creation Project & Tokyo Metropolitan Theatre (Tokyo Metropolitan Association for History and Culture), Toshima Future Culture Foundation, NPO Arts Network Japan (NPO-ANJ)

Produced in association with Japanese Centre of International Theatre Institute (ITI/UNESCO)

Sponsored by Asahi Breweries, Ltd., Shiseido Co., Ltd., Bloomberg L.P.

Supported by Asahi Group Arts Foundation

Endorsed by Ministry of Foreign Affairs, GEDANKYO

Special co-operation from SEIBU IBEKUKUROHONTEN, TOBU DEPARTMENT STORE IBEKUKURO,

TOBU RAILWAY CO., Ltd., Sunshine City Corporation, Caccott Co., Ltd.

In co-operation with the Tokyo Chamber of Commerce and Industry Toshima, Toshima City Shopping Street Federation, Toshima City Federation, Toshima City Tourism Association, Toshima Industry Association, Toshima Corporation Association, Ikebukuro Inbound Association, Ikebukuro Hotel Association
Media Partners: ART IT, J-WAVE 81.3 FM, SHINKO, CINRA.NET, Bljitsu Tacho
Hotel Partners: Sunshine City Prince Hotel, Hotel Metropolitan Tokyo, Hotel Grand City, Sakura Hotel Ikebukuro
Regional Partners: Ikebukuro Nishiguchi Shopping Street Federation, NPO Zephyr
PR Support: Poster Haru's Company, Nevula Extra Support Co., Ltd. (for F/T Emerging Artists Program)
Venue Co-operation: Asahi Art Square (F/T Emerging Artists Program)

Approved by Association for Corporate Support of the Arts

Supported by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan in the fiscal 2013